

どろえのぐ 実践報告書

開催概要

- 日 時：2024年11月22日
- 場 所：お茶の水女子大学いずみナーサリー
- イベント名：普段の保育
- 対 象：1歳～2歳
- 使用素材：血の池地獄の泥・鬼坊主の泥・参加者が持ち寄った土
- 講 師：宮里耕太

活動の流れ

- 「地域の色・自分の色」研究会について説明
 - 血の池地獄の泥・鬼坊主の泥で、どろえのぐ体験（白い紙や黒い紙に描画）
 - 自分たちが持ってきた土をどろえのぐにして体験（洗濯糊を追加）
 - 波線・模様・絵など多様な表現を体験
- (後日)
- 園に残った泥を使って、どろんこ絵の具で遊ぶ。段ボールに描く。

参加者（保育士）の様子

- 黒い紙に描くと「浮き出る」ように見える表現に驚く声
- 地域ごとの土の色や質感を比較しながら「園にある素材でもできそう」と発言
- 泥を絵の具にする過程そのものに興味を示し、園での実践をイメージしていた（こども園の教員による）

気づき・学び

- 保育者研修としては「園の身近な土を使ってできる」という再現性を強く感じてもらえた
- 全国から土を持ち寄ることで、その県の特徴を感じることができた。宮崎の土は赤かった。
- 園児による遊びに引き継がれたことで、活動が「学び」と「日常の遊び」の両面に循環する姿が見られた。









後日：こども園にて





資料作成：宮里耕太
以上